

現況分析における顕著な変化に  
ついての説明書

教 育

平成22年6月

山口大学

## 目 次

13. 農学研究科	1
-----------	---

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 山口大学

学部・研究科等名 農学研究科

### 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅱ 教育内容

### 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 教育課程の編成

農学研究科生物資源科学専攻は、2つの教育研究分野（生物資源科学分野・生物機能科学分野）により構成しており、学生は特定の分野の科目を履修する傾向にある。

本研究科が教育目的（GP）として掲げる『(農学)の広範囲にわたる科学と技術を深化させるため、総合的な基礎学力に基づいた高度な専門知識と能力を備えた、豊かな人間性をもつ研究者、技術者の養成』という視点から履修傾向を改善するため、平成20年度から、生物資源環境科学特別講義Ⅰ・Ⅱ（各4単位）及び生物機能科学特別講義Ⅰ・Ⅱ（各4単位）を、生物資源環境科学特別講義1～8（各1単位）及び生物機能科学特別講義1～8（各1単位）に改編し、単位の認定を4単位毎から1単位毎に見直し、8単位以内を修了要件とすることで学生にとって柔軟な科目選択を可能とした。

これにより、広範囲の領域における最新の知見について履修できる機会を提供できており、結果として、分野を超えた受講生の割合は、平成19年度が0～6.7%に対して、平成20年度は0～20%、平成21年度には3.7～16%と増加傾向にある。（資料1）。

また、学生の主体的な学習活動を適正に評価し、教育効果を高めるため、生物科学関連の英語論文等を通読・理解して、その内容をセミナー形式で発表させ、プレゼンテーション能力を養うことを目的とした「生物機能科学総合演習Ⅰ・Ⅱ（各2単位）」を開設した。

以上のように、教育課程の編成や内容に関して、学生のニーズや教育目的等に応じた適切な見直しを継続的に実施しており、農学研究科が想定する関係者の「期待される水準にある」と判断する。

(資料1 分野別 特別講義受講者数一覧)

平成22年2月1日現在

研究科・専攻	分野	受講年度	生物資源環境科学特別講義								生物機能科学特別講義								合計
			1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	
農学研究科 生物資源科学専攻	生物資源環境科学分野	平成20年度	10	18	16	18	非開講				4	0	0	1	非開講				67
		平成21年度	非開講				18	18	23	21	非開講				4	4	1	2	91
	生物機能科学分野	平成20年度	0	4	4	4	非開講				17	4	17	17	非開講				67
		平成21年度	非開講				3	3	3	4	非開講				26	28	26	20	113
合計			10	22	20	22	21	21	26	25	26	4	22	23	45	44	39	29	399

※平成20年度入学者より、特別講義Ⅰ・Ⅱ(4単位)→特別講義1～8(1単位)へ科目変更。

※8科目を4単位に分割して隔年開講(平成20年度:特別講義1～4、平成21年度:特別講義5～8)